

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒 120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所
青少年課 青少年事業係

TEL 03-3880-5275 <http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 野辺 陽子
編集 調査広報部
大林 市川 小野田 高澤
手塚 田中 鈴木 川下
堀内 山岸 山川



子ども達に

「がまん」を

足立区
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

半世紀も前のことになるが、私の子どもの頃の子ども会といえ
ば……。夏休みの前に、校庭に地域毎に分かれて集まり、担当の
先生からラジオ体操の終わった後にゴミ拾いをしながら帰るよう
にと説明を聞く。何のためにか意味もわからず、学校から自
宅までの道のりを友達と共にゴミを拾いながら歩いた。舗装など
されていないし、車もほとんど通らな
い土の道を。

今考えてみれば学校型子ども会だっ
たのだろう。後にも先にも活動はこの
ゴミ拾い一回だけだった。子ども会の
楽しさも教育的な意味もわからず私
の子ども会への思い出は終わっている。
もともと、昔は55人の30クラス、千五
百余人の児童を教師がとりまとめてい
るのだから無理もない。昔はそれで良
かった。

今の子ども会といえは……。行事が
あれば、飲み物、お菓子、おみやげの
至れり尽くせりの子ども天国。

現代は、少子・核家族の状況の中で、
親の自己中心主義が子どもに乗り移り、
自分さえ良ければという考えが非行ひ
いては犯罪に直結してしまう世の中だ。
自製の効かない子ども、物の善悪を考
える前に欲望を優先してしまふ子ども。
「がまん」の心を育てる子ども会活動
が今こそ必要なのだ。そう確信し、今
後も広く訴え続けていきたい。

少連協新年会開催 あらたなる結束を！

総務部長
元井 一壽

平成二十六年一月十七日(金)
午後六時三十分より、足立区役所
十四階展望レストラン「ピガール」
に於いて、少連協新年会が開催さ
れました。

ステージの周りには、新春に相
応しい、春色の花鉢がところ狭し
と並べられ正に開会に花を添えて
いました。

新春の幕明けは第一部、山本輝
夫副会長の司会、大林英夫副会長
の開会の辞で始まり、少連協行事
では恒例になった区歌斉唱、小野

田みよ子書記、馬場信男常任理事
の指揮の下、参会者百三十余名に
よる歌声は圧巻で力強い歌声が会
場一杯に響き渡りいっきに雰囲気
も和みました。

主催者、野辺陽子会長の年頭の
挨拶では、「私達は足立の子ども
達を健全に育成する使命があり、
今まで以上に少連協は結束を固め
それぞれの立場で責任ある大人と
して最善を尽くしてほしい」との
メッセージがありました。

主賓にお迎えした足立区長代理
の青木光夫教育長は、少連協のポ
ランテニア貢献に謝意を表明され、

今後の少連協の運営活動に期待を
よせられました。

足立区議会を代表して馬場信男
区議会議長は、ご自身も少連協の
常任理事という立場で少連協活動
に携わってきているので「子ども
達への健全育成に対する皆さんの
熱意は日頃より強く感じています。
これからもご支援、ご協力に一層
の努力を惜しまない」とのお言葉
をいただきました。

その後、鈴木春男副会長による
小中学校長会会長・小中PTA連合
会会長・健全育成団体代表の方々
ご来賓の紹介があり、丸山昌哉小



▶花鉢が並べられた開会式



▲青木光夫教育長のご挨拶



▲丸山昌哉小学校校長会会長の乾杯発声



▲手をつないで「青い山脈」の大合唱▲

学校校長会会長の乾杯発声で会場は更に和みました。

第二部は、元井一壽総務部長に引き継がれ会場の雰囲気も佳境のなかビンゴゲームの始まりです。

今回は開始五分もたたない内に「ビンゴ」の声があがり、ブーイングの雨となりましたが、「喜一憂しながらも全員が賞品をゲットし一段落、最後はやっぱり「青い山脈」の大合唱、どの顔も満面の笑顔、歌声を聞いていると、これからの少連協の進展がうかがえ、子ども会の更なる発展を誓って、関口政利中学校校長会会長の中締め、加藤俊次副会長の閉会の辞で楽しかった新年会も無事終了。ご協力ありがとうございました。



▲関口政利中学校校長会会長の中締め

少連協日帰り研修旅行 大雄山最乗寺ほか

総務部長 元井 一壽

去る、平成二十五年十二月一日（日）、平成二十五年少連協日帰り研修旅行を開催いたしました。

当日は、野辺会長、大谷課長をはじめ総勢四十五名が参加していただきました。

今回の研修先は、南足柄市に在る大雄山最乗寺、アサヒビール神奈川工場、二宮尊徳記念館を見学しました。

午前八時に集合場所の西新井を出発し、東名高速に乗り一路南足柄市に在る大雄山最乗寺を目指しました。

このお寺は、最乗寺の守護である「道了大蔵」でも有名なで、俗に道了様と言う名前で親しまれている寺院です。杉林の中、幾段もの階段を上がり境内に入ると、素晴らしい七堂伽藍が私たちを迎え入れてくれました。澄み切った空気と荘厳な佇まいの中で、身も心も清められ

▲二宮尊徳記念館にて



たと感じたのは、私だけでは無かったと思います。

その後、アサヒビール神奈川

工場を見学し昼食後、小田原に在る二宮尊徳記念館を見学しました。ここは、二宮尊徳の生家に隣接している施設で、二宮尊徳の生前の功績や生活態度など展示してあり、詳しく説明していただき、勉強になりました。

最後に小田原で買い物をして、一路、足立区に向かいました。

帰路のバスの中では、総務部が用意したビンゴゲームで盛り上がり、多少の渋滞もあり苦では無かったと思います。

今回の研修旅行では、寺院での清々しい気分と、二宮尊徳の勤勉で人の為に尽くそうとした心意気に触れ、とても意義のある研修でした。

参加をいただきました皆様、有難うございました。また、来年度も素晴らしい研修が出来ますよう、総務部一同で企画いたしますので、一人でも多くのご参加をお待ちしています。

第47回全国子ども会育成中央会議・研究大会

副会長
大林 英夫

平成二十五年度全子連育成研は、宮城県松島町で東北六県の東北地区子ども会育成連絡協議会主催で「東北復興支援大会」として、二月十四日より十六日まで大雪の降る中、開催されました。

「つながろう全国の子ども会、この東北の地で」のテーマで全国の子ども会関係者六百余名が出席し、熱い討議を繰り広げました。

開会式冒頭に「第三十五回少年の主張大会」最優秀賞である内閣総理大臣賞に輝く気仙沼中学校三



年生の梶川裕登君の「忘れないために」というスピーチが披露されました。あの三・一一の悲惨で壮絶な大震災を体験し、それを忘れないために自分達にできることを考え、後世に伝えるために津波の到達点を電柱に掲げる活動をしてきたことについても語られていました。体験を生々しく、情感を込めて発表する姿に会場は静まり返りました。そして終わってからもしばらくは静けさが続き、その後には嵐のような拍手の波が押し寄せ



たのです。多くの人々が震災の惨さを改めて感じた瞬間でした。

閉会式は、関東地方の大雪の影響のため、式次第の変更を行い、文部科学大臣代理の永山賀久氏をはじめ多くの来賓の挨拶があり、子ども会にたくさんの方々が向けられていることが感じられました。

基調講演「小・中・地域連携した防災教育」は、東北大学大学院教育学研究科の谷口和也准教授が講師としてお話されました。子ども会が抱える課題を地域防災を主体に考えて、その活動を通じて、地域、ボランティア等に取り組んで、地域活動を活性化しようとする試みが発表されました。個人のライフスタイルは多様化し、地域の活動は減少している、個人のライフスタイルを尊重し、地域の集い等に参加してもらい、親世代を防災教育に引き込み、子ども会参加に繋げるようにするべきだという内容でした。私たちも、頷けることがたくさんありました。

■災害ボランティア時に地域への協力を若者に頼む。

■小・中・高との連携を図る。
■諸団体、諸機関との連携が大切である。

以上のことを災害時だけではなく、日常にできるだけ地域の関連事業にたくさんの方々の人たちを取り込むことが必要であるということでした。今回の育成研には、野辺会長・鈴木（春）副会長・小野田書記・鈴木（健）会計・大林以上五名が参加しました。

【第五分科会】小野田みよ子
「地域を支え、地域に生きる、子どもの育成」

午前七時三十分、被災地支援視察ということで気仙沼地区へ出かけました。昨夜来の雪も激しさを増し、沿岸部では雪の下から家々の土台のみ、三年近くになっても復興には程遠く、現場に立ち、ガイドさんの話を聞き、改めて震災の凄まじさを実感しました。

午後二時三十分より分科会、宮城教育大復興支援センターの野澤令照副長より、講演「大震災で見えてきたもの」がありました。子ども達の心への影響の中で、物音に敏感になった。地震のことを考えつつも忘れない。これからのこ



▲子ども達による行山流「水戸辺鹿子躍」

とが心配と思いながらもたくさん
の支援に感謝し、できることは何
かも考えている。小学生でも避難
所での炊き出しや一人暮らしのお
年寄りに物資を届けたりした。ま
た中高生などは、瓦礫の撤去や家
具の片付け、仮設住宅で暮らす子
ども達への学習指導や遊び相手を
していた。等々、子ども達の力強
さに感動しました。

また、子ども会活動をサポート
するためのお父さん達のネットワ
ーク作りの活動報告もありました。
自分の妻がジャンケンで子ども会
の会長になったのをきっかけに仲
間を募集したところ、賛同者が集

全国的に子ども会会員の減少が
悩みのようで、いかにしたら増加
にもっていきけるのが分科会に参
加した皆さんの願いでした。

埼玉県の参加者から次のような
発言がありました。学校の先生に
子ども会担当を作ってもらうこと
により、地域と学校の連携がより
強固になっていくということでは
す。

また、小田原の子ども会では、
他の団体から子ども会に入会する
ように働きかけてもらっているそ
うです。

まり六年間の活動が認められ、職
やTシャツを子ども会が作成して
くれ、楽しく活動しているという
話も伺えました。

その後、五人一組のグループ討
議に入りましたが時間が無く、思
った討議ができずに残念でした。
しかし、震災にめげず、地域の子
ども達と大人達が元気に楽しく活
動している姿に「氣」を貰うこと
ができた研修会でした。

【第八分科会】 鈴木 健治
「子ども会会員の増強に
つながる、子ども会活動
を考える」



▲塩竈市に古くから伝わる塩竈基句、大漁唄い込み

また、御殿場の子ども会では、
強制的に入会するようになってい
るので、皆さんは会員になるのが
当り前だと思っっているようです。
役員の任期についても一年交替で
すぐに変わるので苦勞に思うこ
となく終わってしまうと言ってい
ました。

会員増強の源は、他人のために
犠牲になりボランティア活動を行
えるか、また、その活動を楽しく
考えることができるかどうかなの
だと思えます。

今回初めて参加させていただき
ましたが、参加者が同じ悩みを抱

えながら活動されていることに対
し本当に頭の下がる思いがいたし
ました。

**【最終日シンポジウムを
聞いて】 鈴木 春男**

最終日のシンポジウムでは宮城
県の高校生五名がバネリストとな
り、復興の町づくりについて「子
どもに笑顔を・地域に夢を」のテ
ーマで発表がありました。

「先ずもって、大人は嫌い！」南
三陸町の女子高校生の衝撃的な発
言でした。先ずもって……は、
「初めに……皆さん聞いて下さい
……」という意味の地方言葉だそ
うです。震災で町から人が減り、
復興計画も中々定まらず、大人は
何をしているんだろう、信用でき
ない！と感じ、高校生の自分が
できることは何か？ を考えて
「先ずもって……」と人々に震災
時の悲惨な状況や身の周りに起こ
った事実を語る「かたりべ」を始
めたそうです。震災前の大好きな
南三陸町、楽しいお祭りをもう一
度みんなと楽しみたい。復興まで
何年もかかるけれど「かたりべ」
を続けます！と力強い言葉に感
動した研究大会でした。

少子化の中での子ども会活動の活性化を求めて

新しい時代の指導者に望むもの

基調講演

地域に根ざした生涯学習

としての子ども会活動

講師 放送大学 岩永雅也教授

一九八〇年代半ばの臨教審答申以来、「学校スリム化」によって、子どもたちの生活時間の大きな部分が家庭に返されるようになりました。しかし、子どもを学校に預けることに慣れた家庭では、その時間を十分教育に生かすことが難しくなりました。

そうした学校と家庭の間隙を埋め、独自の力を発揮できるのが子ども会活動をはじめとする地域活動です。



▲開会式で主催団体として挨拶をする野辺少連協会長



▲岩永雅也講師

動です。

今回は、

- ①子どもの発達と家族
- ②子どもの教育と学校
- ③子どもと地域

という視点から、放課後子ども支援について講演していただきました。

【第一部会】

大林 英夫

テーマ「保護者、育成者、指導者の役割」

言葉の定義について、子ども会の意味が分からない方が多い。

また、ジュニアリーダー、シニアリーダー、青年リーダーの意味がよく分からない。

保護者、育成者は子どもの目線で考え、最終的に子どものあるべき姿を発揮できるような活動、手助けをしていこう。

【第二部会】

鈴木 春男

テーマ「地域活動と行政のかかわり」

○今年度五十二名のジュニアリーダーが誕生した。指導者、育成者ともに喜んでいいる。

○区の少年団体連合会から子ども会への補助金はしていない、その点について資金に余裕があるなら助成金制度を考える必要がある。

○市子ども会育成連合会は役所に事務局があり、週二回会合を開いている。急ぐ用件の際は非



▲各部会での討議

常に困ることがある。(安全共済会の手続きなど)。

○足立区では、役所より年間約九百万円の補助金が、少連協三十一団体へ予算化されている。その資金を活用し、各団体の中からジュニアリーダー研修会が区内二十会場で行われている。その中でより優れた子ども達を夏にキャンプに連れて行く行事も積極的にやっている。

○行政は地域の指導者、育成者とともに、子ども会の皆様と協力し、健全な子どもを育成していきたいと考えている。

【第三部会】

清水 康弘

テーマ「子ども会離れを食い止めるために」

○小学校新入生の保護者にリーフレットを配り子ども会の説明、年間の行事、入会をお願いを積極的にさせていただいている。

○以前十二団体あった子ども会が七団体に減少した。その理由は指導者、育成者が高齢化していなくなった。

○現代の保護者は子ども会活動に對し理解していない。またそれより家族という単位で行動した

方が、より楽しいと考えているようだ。

○新しい住民はいるが、お母さんが働いているので役員はできない。新旧で考え方が不一致だ。

子ども会に入ると役員がまわって来るので入りたくないなど今の保護者は子どものことより自分のことが優先で全く理解してくれない。

○平成十六年施行の学校選択制の影響で子ども会活動がやりづらと思う。

○現代の母親とのジェネレーションギャップを感じている中で、新役員さんとのように付き合っていたらよいか難しい。色々な点をクリアすることが大切だと感じた。

【第四部会】

山本 輝夫

テーマ「いま、ジュニアリーダーに求めるもの J-L 討議」

ジュニアリーダー十四名にアンケートして本音をいただいた。素晴らしい意見があった。

○人と人の関わりが楽しいので続けていきたい。

○学校の成績に帰ってくるし、ボランティア活動もやりたかった。

○今年にはジュニアの研修会を三宅島で行うので是非参加したいと考えている。

【全体会】

鈴木 健治

助言者

東京都子ども会連合会

理事 石井 幸夫

行政との関わりについて

○立川子ども会連合会では、教育委員会から市長部局へ移行してから補助金の削除や青少年委員制度の廃止があった。自主財源の必要性。行政の補助を当てにしない。しっかりとした活動内容で会員からの年会費を集め、自分達で作っていくことが大事。○ジュニアリーダーになって良か



▲全体会議

ったことは、活動していると学校成績にプラスになる。今でもそのような証明を出している地域もあるようだ。だから親御さんもジュニア活動に協力して、みんなでバックアップを是非行ってほしい。

助言者

足立区青少年課

社会教育主事 村上 長彦

地域で育てる

子ども会活動で地域の人や大人と出会って勉強となっている。

第一部会について

子ども会は綿菓子のような組織。決まったものが無く自由に大きくなるような作り方をしてほしい。

第二部会について

行政の相互補完関係。足立区が子ども会を作るように指導した。

ジュニアリーダーを利用し成長させる事が大事である。

第三部会について

子ども会の原点に戻る。日先を変える、魅力を与える、役員の担い手を育てる。

一番は役員の育成指導、それを学校や町会にPRして家庭にない行事を行う。

平成二十五年東京都地区子ども会連合会表彰一覧
足立区

指導者・育成者組織

鹿浜島子ども会

代表 津谷 孝一

子ども会組織

青井みどり子ども会

代表 川端 悠仁



第四部会について

ジュニアリーダーは非常に大事な地域の力になる可能性を持っている。だが、今は良いが今後考えた研修やスキルアップになる活動が、どの地域にもないことが非常に残念である。

第六回ドッチビー大会

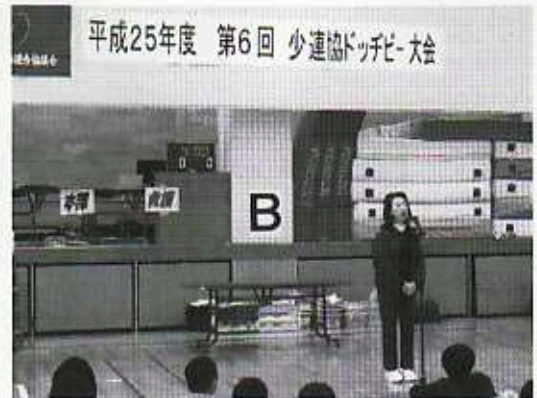
事業研修部長 清水康弘

平成二十六年二月十一日(火)
総合スポーツセンター大体育館に於いて、従事者・参加者含め三百六十六名が参加し、第六回ドッチビー大会を開催いたしました。
今回は、参加二十四チームを三ブロックに分け、各ブロックの優勝チームが決勝戦を行い、優勝は第五地少協「西新井本町二丁目A

Aコート	第1ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会A	第2ブロック 第五地少協 緑園キッズ	第3ブロック 第五地少協 HOZUKA-A	第4ブロック 第五地少協 新緑A	第5ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会B	第6ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会C	第7ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会D	第8ブロック 第五地少協 カバチB	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
A1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	5	10	118	19	99	1
A2	X	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	4	76	95	-20	5
A3	X	X	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0	15	59	100	-41	8
A4	X	X	X	◎	◎	◎	◎	◎	4	7	93	69	27	2
A5	X	X	X	X	◎	◎	◎	◎	2	5	77	99	-12	4
A6	X	X	X	X	X	◎	◎	◎	1	4	69	104	-26	7
A7	X	X	X	X	X	X	◎	◎	4	6	82	92	-1	3
A8	X	X	X	X	X	X	X	◎	2	2.5	89	99	-10	6

Bコート	第1ブロック 第五地少協 加甲小	第2ブロック 第五地少協 緑園キッズA	第3ブロック 第五地少協 カバチB	第4ブロック 第五地少協 花畑B	第5ブロック 第五地少協 GreenA	第6ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会A	第7ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会B	第8ブロック 第五地少協 サマーソング オーケストラ	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
B1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3	6.5	88	79	9	4
B2	X	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3	6.5	88	80	8	3
B3	X	X	◎	◎	◎	◎	◎	◎	5	10	107	48	59	1
B4	X	X	X	◎	◎	◎	◎	◎	1	2	78	92	-20	6
B5	X	X	X	X	◎	◎	◎	◎	0	2	68	108	-35	7
B6	X	X	X	X	X	◎	◎	◎	5	7	84	63	21	2
B7	X	X	X	X	X	X	◎	◎	3	5.5	83	87	-4	5
B8	X	X	X	X	X	X	X	◎	0	0.5	54	100	-48	8

Cコート	第1ブロック 第五地少協 花畑C	第2ブロック 第五地少協 チーム428(フー ビー二作)	第3ブロック 第五地少協 Y	第4ブロック 第五地少協 新緑B	第5ブロック 第五地少協 FUCHIE	第6ブロック 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会A	第7ブロック 第五地少協 HOZUKA-A	第8ブロック 第五地少協 花畑D	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
C1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	4	76	96	-20	5
C2	X	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3	6.5	83	65	18	3
C3	X	X	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3	6.5	95	83	12	4
C4	X	X	X	◎	◎	◎	◎	◎	4	6	87	80	7	2
C5	X	X	X	X	◎	◎	◎	◎	2	2.5	74	94	-20	6
C6	X	X	X	X	X	◎	◎	◎	5	10	111	34	77	1
C7	X	X	X	X	X	X	◎	◎	1	3	69	90	-21	7
C8	X	X	X	X	X	X	X	◎	0	1.5	50	103	-53	8



▲開会式で挨拶する野辺会長



▲優勝した西新井本町二丁目Aチーム

編集後記

今年度は、東京都子ども会連合会育成研究協議会を開催し、来年度には、江東五区少年団体代表者会議を足立区で開催する予定です。皆様方のご協力をお願いいたします。
(編集者)

決勝ブロック	A1 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会A	B3 第五地少協 カバチB	C6 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会B	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
A1 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会A	◎	◎	◎	2	3.5	38	23	15	1
B3 第五地少協 カバチB	X	◎	X	0	0	20	40	-20	3
C6 第五地少協 西新井本町二丁目 子供会B	X	X	◎	1	2.5	32	27	5	2

チーム」、準優勝は第五地少協「西新井本町二丁目Bチーム」、第三位は蒲原地少協「カバチBチーム」という結果になりました。